

本多静六博士～日本の緑を育てた埼玉の偉人～

第4話 本多静六の生き方

今回は、本多静六博士が人生の成功のために実践した生活様式や処世訓をお話します。

本多静六は、85年の生涯を通じて360冊あまりの著書を世に^{あらわ}著しました。その内容は、自身が専門とする林学に関する著書に留まらず、幸福な人生をおくるため、自身で独自に考案して実践した生活様式や人生経験に基づいた処世訓を数多く残しています。



著書の側に立つ本多静六



本多静六の著書の一部

これらの生活様式や処世訓に関する著書は、現在でも版を重ねて出版されているものが少なくありません。

これは、困難な環境にあっても、努力の積み重ねによって、名声を得て、巨額の富を築いた社会的な成功者として、静六が評価されているからです。そして、時代は違っても、現在に生きる私たちの生き方にも通ずるものがあるからに違いありません。

静六の残した代表的なことばとして、「人生 ^{すなわち} 努力、努力 ^{すなわち} 幸福」ということばがあります。人生は努力であり、努力は幸福を生むというこのことばは、まさに努力の人であった静六自身の生き方を物語ることばです。

最初の動画の静六の生い立ちでもお話ししましたとおり、静六は家庭が困窮する中で、苦学して身を立てた人物です。また、はじめから勉強が好きで、勉強ができる天才的な人でもありませんでした。

そうした、世の中の誰であっても、努力を積み重ねることによって成長し、道が開け、自分の望みどおりに生きることができるということを、身をもって示したのです。

どのような境遇にあっても、自分自身が全力で努力し、努力することを怠らないこと、そして自分の将来は自分自身で切り開いていくことこそ、静六が自身の体験に基づき人々に伝えたかったことだったのではないのでしょうか。

また、静六は、ドイツ留学時代の恩師の教えや、自身が困窮して苦労した経験から、経済の自立なくして自己の確立はないと、個人の経済的な自立を主張しました。

財産や金銭は、生きていく中で必要不可欠なものであり、それが安定しなければ、自分の信念を貫くことはできず、人は大成することはないと考えていたのです。

そして、経済的に自立するための方法として、生活する中で儉約と貯蓄を徹底して実践しました。



本多静六の著書の一部

静六が考案して実践した儉約方法として「ツモリ貯金」があります。これは、洋服や家具など欲しいものがあったら、それを買ったつもりになり、買ったものは一時的にお店に預けたと自分に言い聞かせる方法です。

この他、静六は、文章の原案を書くものとして、古いノートやチラシ広告、封筒の余白など、再利用できるものは徹底して使いきり、自宅の風呂桶は水を入れすぎないように、丸い形にして、水位を記すなどの方法により、家計の支出を抑えたのでした。

静六が考案して実践し貯蓄方法として「四分の一天引貯金」があります。これは、毎月の給料のうち、四分の一の金額を貯金して積み立てていく貯金方法のことです。

静六は、ドイツ留学から帰国して母校の助教授となった直後から、これらの儉約や貯金方法を実践し続けました。

そして、貯金がある程度貯まってくると、そのお金で山林や株を買い、資産をさらに増やしていきました。

静六が40歳のころには、給料よりも貯金の利子や株の配当金の方が多くなったといえます。

日本人は、自分自身の財産や蓄財方法について、あまり公には話したがらない傾向があるように思いますが、静六が自分自身の取り組みを著書を通じて人々に伝えようとしたのは、やはり個人の経済的自立がいかに重要なものかを考えていたことを示すものといえましょう。

今回ご紹介した静六の生活様式や処世訓は、ほんの一部です。現在も静六が著したこれらの本は、版を重ねて刊行されていますので、機会があれば、ぜひ一度手にとって、静六の考え方や生きざまに接してみてください。